

三豊総合病院だより

Mitoyo General Hospital



発行●三豊総合病院

発行人●白川 和豊

2011
48



新西棟が完成いたしました。



2011年7月竣工



企業長
廣畠 衛

10~15年毎に新たなコンセプトと取り組んできた三豊総合病院企業団。

今回の整備計画完成後のコンセプトは

- ①敷地内建築物の全棟を新耐震基準に適合させ、耐震化・免震化による安全性の向上。
- ②院内のサイン・デザインの統一化・単純化による「わかりやすさ」の向上。
- ③ECO対応による環境負荷の低減およびエネルギー安定供給による医療の安全性の向上。
- ④患者と職員の動線分離による機能性の向上と感染症対策などあります。

毎回、時代のニーズに対応し変化成長できるシステムを盛り込みながら、また次の建物の完成をめざしています。



副企業長兼院長
白川 和豊

三豊・観音寺地域の基幹病院として当院が担うべき救急医療、災害時医療、がん診療などの領域において、時代の要請・水準に応じた質の高い医療を提供できるよう新棟整備事業を進めています。

今回の新西棟の竣工はその要となるものです。

高度診断機器の導入など診療機能の充実とともに、アメニティや、動線のわかりやすさなど療養環境の改善にも工夫を凝らしました。

今後ソフト面の充実を図りながら、当院を利用される地域の住民の保健・医療・福祉のより一層の向上に取り組んでまいります。

西棟の概要

【規模】地下1階・地上8階・PH1階 【延床面積】19,436.210m²

【構造】鉄筋コンクリート造[免震構造]

救命救急センターの整備とともに、放射線部門を隣接させ、直上階の手術部門、ICU・CCUとエレベータにて結び、救急医療、高度医療施設の充実を図っています。

3階から8階は病棟として、トイレ・洗面付4床室、ユニットシャワー付1床室をアメニティ豊かに整備しています。

エネルギー室には発電機を増設整備し、停電時に病院機能が継続でき、防災センターで一括管理できるようにしています。

今後の予定

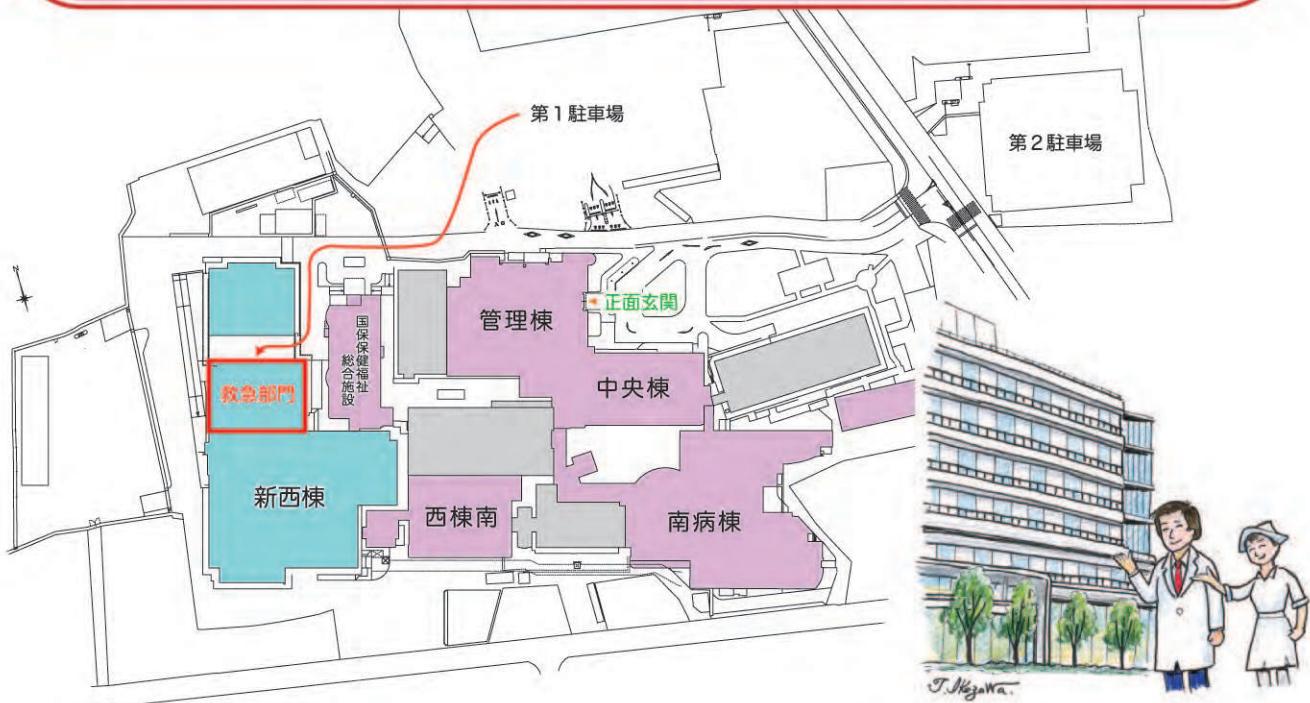
2011年8月～2012年4月：新南棟建設 検査部門の整備。中央棟の改修。

2012年7月～2013年4月：新中央棟建設 コンビニ・レストランの整備。

中央棟増築 外来部門の整備、病室の整備。

※上記工事期間中、継続的に外構の改修を順次行い、駐車場、車寄せロータリーなどの整備を行います。

8月1日より平日17時以降、土日祝日の案内及び
救急診療等は新西棟の時間外窓口をご利用下さい。



病棟のご案内

看護部副看護部長 合田 信子

いよいよ新西棟に患者様をお迎えすることとなりました。完成しました新棟の入院病棟3階から8階について少し紹介いたします。

ナースステーションカウンターには、各階のテーマとなるサインが壁に描かれており目に入ってきます。この絵は、廊下の壁にもレイアウトされており3階の小児科・産婦人科病棟には、かわいいひよこが壁のあちらこちらで散歩をしています。また、デイルームは全面ガラス張りとなっており、特に上方階からみえる瀬戸内海は、遠くまで見渡せ心をなごませてくれます。夕日が沈むころは格別だろうと思います。

病室は個室と4人部屋があり、できるだけ病室内で身の回りのことができるよう、4人部屋にも洗面台とトイレを設置し、シャワールームを設置した個室も作りました。病室、廊下のスペースを広くとり、ナースステーション内の処置室、1階のレントゲン室へも、ベッドでのスムーズな移動ができるようになりました。

プライバシーの確保、安全の面からも過ごしやすい病棟となるよう考えております。新しい療養環境のなか今後も、質の高い看護を提供していきたいと思います。



8階デイルームから
見える風景。
マーガレットの
可愛い壁。



3階小児科に描かれた
ヒヨコの壁画。
童話作家
小笠原まきさんによる作品。



病棟に2つあるゆったりトイレ。
車いすでも
入れる広いスペース。
自動ドアで開閉できます。

新病棟放射線科にご期待ください

放射線科医長 中村 哲也

三豊総合病院に立派な新病棟が建っているのをご覧になった方も多いと思いますが、中身も大きく変わりました。放射線科もその一つです。放射線科には高性能のCTと、血管撮影装置2台が更新となり、PET検査(SPECT-PET)が新たに導入されるようになりました。また救急センターに一般撮影装置が設置されます。

高性能の機器を備えて、どのように利用していくのでしょうか。

今回更新されるCTは血管の描出に優れているCTで、心臓・冠動脈疾患や脳動脈瘤を3D画像で認識しやすくなります。CT検査回数が多くなっても“患者にやさしい”被曝線量低減撮影を行います。血管撮影装置は、心臓・冠動脈はもとより脳・頸部動脈や肝臓等の血管内治療にも有用な機種を設置しました。PET検査(SPECT-PET)については、今まで滝宮総合病院や四国がんセンターなどに紹介して検査していたのが、当院で可能となります。

画像の重ね合わせなどを駆使して、地域がん診療拠点病院としてふさわしい診療の質の向上をはかります。また、救急患者の救急センターに一般撮影を設置することにより、患者の移動を最小限にして撮影が可能となります。

新病棟は外観だけでなく、診療内容の向上が図れています。



新たに導入されたPET検査(SPECT-PET装置)



高性能のCT(256列)の検査の様子(操作室側より)

【緩和ケア病棟より】

三豊総合病院では、2000年（平成12年）に香川県内初の緩和ケア病棟を開設し、今年で12年目を迎えました。

これからも、地域の方々の想いに応えられる緩和ケアが提供できるよう努めたいと考えています。今後ともよろしくお願い致します。

緩和ケア病棟の理念

1. 地域の方が地域の中でより良い人生を過ごすことができるよう、さまざまな職種が協力・連携しあって、患者様やご家族を支える良質の緩和ケアを提供します。
2. 患者様の権利を尊重し、いのちの尊厳を守り、その人らしく過ごせるように良質の緩和ケアを提供します。

東日本大震災支援活動に参加して

三豊総合病院 地域医療部部長 中 津 守 人



国診協からの派遣で、平成23年6月16日～6月22日の1週間、常勤医師が不在となった宮城県気仙沼市の本吉病院へ診療支援に行ってまいりました。病院のある吉本地区は、東北新幹線の一関駅からレンターカーで約1時間40分のところにあり、海と山に囲まれた自然の豊かな町です。震災前の本吉病院は、常勤医2名、職員総数31名、38床の公立病院で、本吉地区（人口11,000人）唯一の医療機関でした。

震災時は病院1階の天井近くまで浸水し、カルテは流され、レントゲン装置やCTも使用不能となりました。幸い、患者さんや職員は2階へ避難し、全員無事でした。震災後1ヶ月以上かけて、病院職員のみではなく、消防や住民なども協力し、病院内の泥を取り除く作業をされたそうです。病院職員の中にも、家屋が流された方や家族を亡くされた方もいらっしゃいましたが、被災された患者さんの診療や病院内の掃除など、非常に献身的に仕事をされたそうです。

私が派遣されたときは、ちょうど震災後3ヶ月が経過していましたが、まだ余震が頻回に続いており、大きな余震がそろそろくるのではないかといううわさも流れていきました。下水がまだ一次処理のみ可能な状況でしたが、水や電気は復旧し、住民のかたも、少しづつ日常の生活をとりもどしつつありました。病院も1階部分はきれいに整備され、通常の外来診療が行える状態になっていました。

外来診療には、内科、整形外科、小児科、心療内科、皮膚科などいろいろな疾患の患者さんが来院されました。不眠を訴える患者さんや、外来中に突然震災時のことを思い出して泣き崩れる患者さんなどもいらっしゃり、精神ケアに関する知識の必要性を痛感させられました。普段、内科疾患しか診療していない私にとっては、不安をかかえながらの診療でしたが、派遣前に、院内の勉強会に参加していたのが、少しは役立ったのではないかと思います。災害時の医療機関の対応や、災害支援のあり方など、大変勉強になりました。東北の方のやさしさ、粘り強さ、復興に向けた熱意を感じた1週間でした。

最後に、被災地の一日も早い、復興をお祈り申し上げます。



被災地の様子



本吉病院のスタッフの皆と一緒に

災害に備え、この様な準備をしています。

用度課

大地震などの災害でライフラインが途絶え、病院が本来の機能を果たせない中でも、次々に来院する傷病者に対し病院は出来る限りの対応をしなければなりません。そのような状況下で最低限必要となるものを常備するために、当院には備蓄倉庫があります。

昨年度より、備蓄倉庫の改築に合わせ、常備する備品等について医師・看護師・技師・事務といった各部門で構成する委員により、その常備品について再検討してまいりました。しかし、奇しくも今回の東北大震災により、本当に災害時に病院が備えなければならないものが見えてき、それまで私達が考えていたものとは大きな隔たりがあることに気づきました。簡易トイレや水を入れるポリタンク、また火をおこすためのガスコンロ等、我々が普段の生活で当たり前のように使用しているもので、かつなくてはならないものが見落とされていました。

今回の大震災は、被災地から遠く離れた私達にとって非常に悲しい出来事でありました。しかし、近い将来私達の身近に起こり得る大震災の備えを考える時に、このことが大きな教訓になったことは間違いないありません。この教訓を無駄にしないためにも、備蓄倉庫のより一層の充実を図り、大きな災害に備えることも災害拠点病院である三豊総合病院の大きな役割と考えます。



備蓄倉庫外観

薬剤部

当院薬剤部では、災害時における被災者の緊急救護用として、「香川県震災時用医薬品等備蓄管理要綱」に基づいて、震災時用の医薬品等を備蓄しています。

震災時には、香川県災害対策本部からの連絡で、備蓄医薬品を指定された応急救護所等へ運びます。

備蓄医薬品には、消毒薬、局所麻酔薬、輸液、抗生物質、解熱鎮痛消炎薬などがあります。

また、病院独自にも災害時用医薬品として、輸液等を備蓄しています。

持病があり、薬の処方を受けられている患者さんは、投薬時に記録される『お薬手帳』の携帯をお勧めします。お持ちでない場合は、薬剤情報提供プリントや飲んだあと>P T Pシートなどお薬の名前とその飲み方を特定できるものでもかまいません。

災害時に薬を持ち出せなかつた場合や避難生活の場合に、普段飲んでいる薬がなくなつても、お薬手帳を見せることにより、飲んでいる薬が分かり、現地にある薬品を使って、災害前と同等の内服を続ける事ができます。

『お薬手帳』をぜひ活用してください。



災害に備え、この様な準備をしています。

**栄養
管理科**

3月11日におきた東日本大震災により被災地ではライフラインが遮断され、医療機関も大きな被害をうけました。食事提供面でも通常食の提供までに1~2週間要したとの報告もあります。今後30年間で発生確率60%とも予測されている東

南海地震に対する備えとして、当院では7月完成の備蓄倉庫に新たにライフライン遮断を想定した3日分の非常食（乾燥粥、アルファ化米、保存パン、缶詰類、水など）を準備しています。さらに今後は非常災害備蓄食品リスト（非常食献立、保管場所、賞味期限、原材料などを記載）による担当部署以外の職員が対応できる体制や災害時の役割分担など、具体的な対応マニュアルを院内で検討していきたいと考えています。

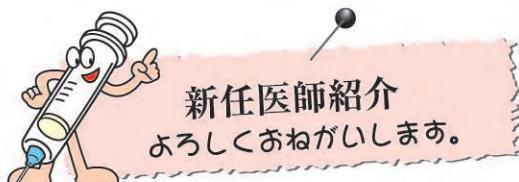


**ME
サービス科**

ME (Medical Engineer) サービス科は臨床工学技士免許を取得している医療機器のスペシャリストです。病院内で医師の指示のもとに生命維持管理装置の操作を行ったり、安全性確保や有効性の維持の為に保守点検・修理を行っています。生命維持管理装置である人工呼吸器は停電

時にバッテリー運転ができるように点検をします。機種や、使用年数によっても違いはありますが、約2時間程度は動作できます。病室でよくみかける輸液ポンプやシリンジポンプも、バッテリー動作できるように点検を行っています。

また透析室では臨床工学技士が常勤し臨床業務に加え、透析装置の日常点検やバッテリー運転の点検等を行っています。これにより災害時に停電になっても、安全に透析治療から離脱することができます。そのほか緊急離脱セットを各透析装置に準備し災害時にそなえています。



泌尿器科

中塚 浩一 (なかつか ひろかず)



7月より着任しました中塚浩一です。一昨年まで姫路市、昨年は岡山市で病棟医として勤務しており、今年度の7月から三豊総合病院に転勤して参りました。泌尿器科医として地域の医療に少しでも貢献できるように努めます。

泌尿器科全般お困りのことがありましたら気軽にご相談下さい。



初期臨床研修医

寒川 泰 (さむかわ やすし)

研修医2年目の寒川泰と申します。生まれは岡山県倉敷市で、香川大学医学部を卒業し、香川大学医学部附属病院卒後臨床研修センターで研修を始めました。医学と医療は全く同じものではないということを、常に念頭に置いて、日々先輩方から学ぶ姿勢で頑張ろうと思っています。よろしくお願ひいたします。

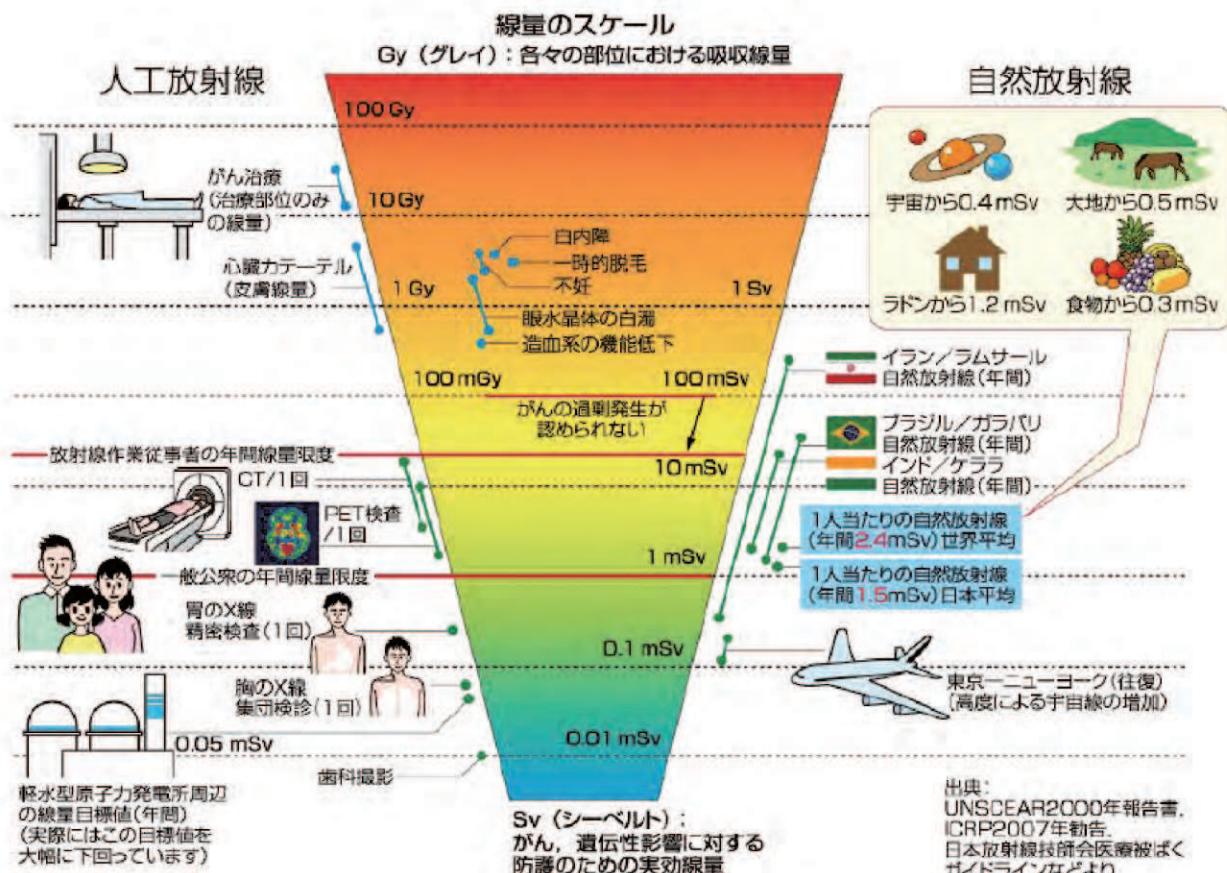
放射線被曝の影響について

放射線科医長 中村 哲也

東日本大震災による福島原発事故が、事故発生後半年近く経過してもテレビや新聞でも大きく取り上げられています。最近では、炉心融解や水素爆発などの原発の事故内容から、放射線被曝へと内容が移ってきてています。内部被曝やセシウム、mSv(ミリシーベルト)と、日頃、聞きなれない言葉が飛び交っていますが、この機会に放射線被曝について知識を得るのもいいかもしれません。ただ、興味本位のマスコミや風評には惑わされないように。

放射線被曝について一番気になることは、人体への影響でしょう。放射線に被曝すると、脱毛し、放射線皮膚炎が起き、死に至る、と漠然と考えている人が多いと思います。確かにこのような放射線障害は起きますが、それは大量被曝の場合です。少量被曝の場合は、脱毛や皮膚炎はなく、生死におけることはありませんし、奇形性や遺伝的影響も報告されていません。では少量被曝で問題となるのは何かというと、発癌性です。少量の放射線被曝の発癌性については専門家でも意見の分かれるところですが、被曝後、数年～数十年経過すると癌の発生が高くなるとされています。高齢者より特に小児で注意が必要とされる理由です。

では、発癌性が起こる放射線量とはどの程度でしょうか。放射線被曝の研究をしている放射線医学総合研究所では、100mSvをその目安としています(図参照)。100mSv以上では発癌性が1.08倍に上昇する推計をしていますが、日本人の約1/3は癌を発症しますので、個人としては高い値とはいえない程度です。100mSvを超える可能性があるのは福島原発周囲の避難地区などに限られ、他の地域ではほとんど影響は出ないものと考えられます。



放射線被曝線量(放射線医学総合研究所のウェブサイトより)

～ベビーマッサージ教室をしています～

産婦人科病棟

毎月第1火曜日13時～15時、生後3～5ヶ月の赤ちゃんとご両親を対象に、小児科医からのお話とベビーマッサージ教室を行っています。担当するのはベビーマッサージインストラクター資格を持つ産婦人科病棟助産師です。

ベビーマッサージは、親の愛情を表現でき、なつかつての触れ合いを求める赤ちゃんの気持ちを満たすことも出来るテクニックです。定期的なマッサージは、成長ホルモンの増加を促し、筋肉や関節を柔軟にし、感染に対する抵抗力を高める効果もあります。また、父と子の触れ合いの時間をつくり、赤ちゃんとの絆を深め、自信をもって赤ちゃんを扱えるようになるための練習の機会が増えます。ベビーマッサージを親子のコミュニケーションのきっかけ作りにしましょう。当院以外で生まれた方も大歓迎ですので、興味のある方はぜひ一度お越し下さいね。



行事食

子どもの日では、子供達が好きなハンバーグにし、柏餅をお付けしました。

七夕では、そうめん・水晶冬瓜・天の川ゼリーの様な涼しそうな献立にしました。

季節感を味わって下さい。

5月子供の日行事食

- ご飯
- ハンバーグ
- かきたま汁
- サラダ
- 柏餅



7月七夕行事食

- 梅ご飯
- 魚の照り焼き
- 七夕そうめん
- 水晶冬瓜あんかけ
- 天の川ゼリー



当院では4月より健診、産科の患者様と緩和ケア病棟患者様の食器がメラミン食器から強化磁器食器に変わりました。強化磁器食器は古くから日本人に親しまれてきた磁器食器を割れにくくした(アルミナを配合強化)もので、表面が非常に硬く、割れた時の破片が尖らない特徴があります。

強化磁器食器は有田焼きで、絵柄は写真のような白磁に手描きの花をそえた爽やかな色使いです。少しでも家庭的な食事を味わっていただけたらと考えています。